



たくさんの「ありがとう」

平林 千恵

新年度が始まり、一か月がたちました。新しいクラスの友達や担任と共に一生懸命に学習し、元気に遊ぶ姿が見られます。一年生も学校の生活にだんだん慣れてきています。朝は、六年生のお兄さん・お姉さんが教室まで一緒に行ってくれます。はじめに、ランドセルから学習用具を机に入れてロッカーにしまい、次に体育着や図工・音楽バック、ランチマットをフックにかける。このような毎朝の準備も限られた時間の中でやるとなると、なかなか難しいことなのですが、てきぱきと準備ができるようになってきました。最近では、六年生が手伝わずに一年生が自分でやるのをじっと見守っていることも増えてきています。一年生がでけると満面の笑みを浮かべて駆け寄り、がんばったことを褒めたり一緒に喜んだりしています。

先日は、「二年生を迎える会」がありました。司会や代表の言葉を務めたのは代表委員会の五・六年生です。準備時間がとても少ない中、一年生が一日でも早く学校に慣れ、楽しく過ごしてほしいという気持ちを伝えるために頑張りました。各学年もアーチの花を作ったり、プレゼントを用意したり、クイズや劇を考えたりして歓迎の気持ちをあらわしました。そこには一年生がわかりやすいようにと、画用紙に大きく書いたものを提示したり、ゆっくりと話すようにしたり、繰り返し言ったりする工夫などが見られました。ユーモアたっぷりのものもあり、最初は緊張していた一年生もだんだん笑顔が見えてきました。しっかりと上級生の人たちの気持ちを受け止め、落ち着いて座っている姿にこれからの成長がますます楽しみに感じました。最後には一年生からの言葉と歌で感謝の気持ちを伝えることができました。

私たちがの生活の中には感謝の気持ちを伝える場面がたくさんあります。一年生のために六年生が見守ってくれていることや、上級生の人たちが「一年生を迎える会」のために一生懸命に活動してくれたこと。少しやる気がない時に励まして一緒に考えてくれたり、声をかけてくれたりしてくれる友達がいること。いろいろな場面が学校生活では見られます。そんなときに感謝の気持ちを互いに言葉で伝え合えることができる子供たちであることが素晴らしいと感じます。

ました。

私たちの生活の中には感謝の気持ちを伝える場面がたくさんあります。一年生のために六年生が見守ってくれていることや、上級生の人たちが「一年生を迎える会」のために一生懸命に活動してくれたこと。少しやる気がない時に励まして一緒に考えてくれたり、声をかけてくれたりしてくれる友達がいること。いろいろな場面が学校生活では見られます。そんなときに感謝の気持ちを互いに言葉で伝え合えることができる子供たちであることが素晴らしいと感じます。

私たちがは人から感謝されたとき、うれしい気持ちになります。しかし、うれしい気持ちになるのは感謝された側だけでなく、感謝した側もまた同様です。そしてその人たちの周りにもあたたかく柔らかな空気が流れます。そんなところに感謝の気持ちを言葉で表す大切な力があるように感じます。

これから、運動会の練習が始まります。たくさんの「ありがとう」が聞こえてくることと思います。

## 五月の生活指導

元気よく

返事・あいさつ

満開の桜とともに入学してきた一年生も、新しい生活に少しずつ慣れ、毎朝元気に「おはようございます！」とあいさつしながら登校しています。そして教室では、名前を呼ばれたら元気よく返事をしています。

最近、大人も挨拶や返事をする機会が減っているように感じます。お店で買い物をする無言でレジの前で会計を済ませることもできますし、病院で名前を呼ばれても返事をせずに立ち上がる人も見かけます。でも、ちよつとレジで「お願いします」「ありがとうございます」と言ったり、名前を呼ばれたら相手によく聞こえるように返事をしたりするだけでもお互い気持ちがよくなるかもしれません。

どこでも、誰にでも気持ちのよい挨拶・返事ができる子供達を目指して、育てていきたいと思えます。毎日の生活の中でも良い習慣が身につけられるよう、ご家庭でもご協力ください。よろしくお願ひいたします。(生活指導部)